

尼崎西南部の昆虫（その3）

新 家 勝

V Odonata 蜻蛉目

当時、この地域でトンボ採りは、男の子たちに最も人気のある夏の遊びであった。トンボ採りをしない子は、いなかったといってもよく、池や田など水辺はトンボ採りの歓声が絶えなかった。こうした光景は、大阪平野のどこでも見られた筈である。そして、採っても採っても直ぐトンボが現われる様は、振り返えると正に夢のようである。数多い田、広大な湿地帯、随所にある池などが、採り尽せない程のトンボを育てていたのである。しかしながら、いくら固体数が多いと言っても、種類は平地性のものに限られるため、それ程多くはなかった。

1 Aeshunidae ヤンマ科

(1) *Aeschnophlebia longistigma* Selys アオヤンマ

VI. 30. 1946 1♀

後述のギンヤンマの次に多い種類であり、美しい青緑色にちなんで子供たちはタケヤンマと呼んでいた。水辺のアシやショウブなどの間をゆっくりと飛び回り、また庭木の間や軒先などにもよく現れて昆虫を捕食するが、巢上にいる小型のオニグモを捕えることが多かった。当時の図鑑ではアオトンボであった。

(2) *Aeschnophlebia anisoptera* Selys ネアカヨシヤンマ

VII. 11. 1946 1♂

VII. 23. 1946 1♀

前述のアオヤンマによく似ているが、非常に少なく、2頭の標本以外に2、3度捕まえたように思う。習性についての記憶は全くないが、取り損って中空に舞い上がったとき、翅端と基部の褐色の鮮かさが無念さを誘ったものである。当時の図鑑ではネアカヨシトンボであった。

(3) *Polycathagyna malanictela* Selys ヤブヤンマ

VII. 18. 1942 1♀

1頭採集し、標本を保存しているのみで他に目撃の記憶もない。生息する環境が異なるので、この地域には定住せず、偶然、飛来したものと思われる。

(4) *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus* Oguma クロスジギンヤンマ

V. 13. 1950 1♂

VI. 15. 1945 1♀

毎年5、6月頃になると、池の上を徘徊するのが見られたが、固体数は少なかった。

(5) *Anaciaeschna martini* Selys マルタンヤンマ

VII. 29. 1947 1♀

多くはなかったが、池に産卵に来る雌を幾度も捕獲し、目撃した。雄は一度も目撃したことがなかった。

(6) *Anax parthenope julius* Brauer ギンヤンマ

極め付きの普通種で、もちろん個体数も並外れて多く、ヤンマといえばギンヤンマであった。そのためでもないが、標本の保管が悪く、1頭の標本もなくなってしまった。盛夏の夕刻、水田や池のほとりの中空で、おびたしいヤンマが摂食飛翔したが、すべてギンヤンマであったといってよい。この時刻、無数の蚊からなる蚊柱が幾つも立ち上り、ヤンマたちはこの中へ飛び込んで捕食していた。蚊柱は、アカイエカの雄の大群であり、大声で「ワー」と言うと、仲間と間違えて舞い下りて来て顔中にバチバチとぶち当たった。このような大量の蚊が多数のヤンマを養っていたのである。

子供等のトンボ採りの対象も大体がこのギンヤンマであり、雄を「ラ」、雌を「メン」、特に老熟して翅が著しく褐色になったものを「ドロメン」と呼んでいた。また、雌雄の連結飛翔を「ギ」、交尾「ホカケ」と呼んでいた。捕獲した雌の胸部を糸で縛り、時には更に糸の端を短い棒の端に縛り付ける。そして、糸の端または棒をもってぐるぐる回しながら雌を飛ばせて雄を誘い、「ギ」又は「ホカケ」になったところで雄を捕まえる。この間「ラ おーえ」、「ラッぽーえ」、「ヤンマおーえ」、「ヤンバ おーえ」（「おーえ」は「追え」の意味と思われる）など思い思いに声を掛ける。

このような夏の風俗は、この地域からすっかり失せてしまったし、市街化と環境整備の行き届いた現在、もう大阪平野のどこにも見られないであろう。

2 Cordulegasteridae オニヤンマ科

(1) *Anotogaster sieboldii* Selys オニヤンマ

VII. 11. 1946 1♂

VIII. 10. 1949 1♀

素盞鳴神社沿いに流れる武庫川伏流水の水路で採集した。

3 Gomphidae サナエトンボ科

(1) *Siedoldius albardae* Selys コオニヤンマ

VII. 8. 1943 1♀

1頭採集したのみで、これ以外に目撃例もない。たまたま飛来したのではないと思われるが、武庫川の伏流水が流れる水路で多少は発生していたかも知れない。

(2) *Onychogomphus viridicostus* Oguma オナガサナエ

1943 1♀

ラベルを付け替える際、採集月日が記入されてないのに気が付いた。遠い過去のことなので、はっきりした記憶はないが6、7月頃に採集したと思う。この地域で定期的に発生するものではないが、未成熟体であることから、武庫川の伏流水が流れる水路でたまたま発生したのかも知れない。

(3) *Ictinus clavatus* Fabricius ウチワヤンマ

標本は変色しやすく、また破損したので、廃却してしまった。余り多くはなかったが、ハナショウブの古い花茎の先端に特有の姿態で止まっていることがあった。また、8月頃武庫川堤防の背の高い枯草の先によく止まっていた。

4 *Corduriidae* エゾトンボ科

トラフトンボ1頭を採集し、標本にしていたが、破損したため廃却してしまった。5月頃、池の水面近くを徘徊するのが時々見られた。

5 *Macromiidae* ヤマトンボ科

(1) *Epopthalmia elegans* Brauer オオヤマトンボ

IV.9.19491♀

(2) *Macromia amphigena* Selys コヤマトンボ

V.19.19491♀

6 *Libellulidae* トンボ科

標本が残っているのは2種のみ。シオカラトンボ、チョウトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、ナツアカネ、アキアカネは普通に見られた。阪神電鉄の武庫川鉄橋付近ではコシアキトンボが見られた。

(1) *Libellula quadrimaculata asahinai* Schmit ヨツボシトンボ

V.21.19481♀

V.17.19501♂

最近では限られたところにしか産しないようだが、当時は平地の池にも少なくなかった。

(2) *Sympetrum baccha matutinum* Ris コノシメトンボ

IX.30.1946

7 *Calopterygidae* カワトンボ科

ハグロトンボ1種のみが、武庫川伏流水の流れる水路で多数発生していた。

8 イトトンボ科、モノサシトンボ科、アオイトトンボ科

幾種類かはいたが、採集品はなく、確かな記録や記憶もない。

シロヘリクチプトカメムシを西宮市内で採集

新 家 勝

Andrallus spinidens Fabricius シロヘリクチプトカメムシ

1990.7.11

西宮市枝川町

余り見掛けないカメムシが電燈に飛んで来たので、持帰って原色昆虫大図鑑（北隆館）で調べたところ、本邦での分布は南九州までとのこと。びっくりすると同時に図鑑は昭和48年版なので、既に近畿での採集記録があるかと思い、高橋寿郎氏にお尋ねした。氏がいろいろと文献を調べられたところ、1987. 8. 17 倉敷市鴨ヶ辻山の記録はあるが、兵庫県下では未記録であろうとのことなので、報告させていただくことにした

採集場所の西宮市枝川町は、浜甲子園の海岸べりで、付近には甲子園フェリーボートの発着場があり、今津港も遠くないところにあるので、船について来たものが採集されたという可能性がある。一方、神戸ポートアイランドにカメムシがよく集まるように、このあたりも移動するカメムシが通過したり、滞留したりしやすい場所かも知れない。

終りに、ご多忙中のところ本種について多くの文献をお調べいただき、いろいろとご教示いただきました高橋寿郎氏に厚くお礼を申し上げます。

（付記）上記倉敷からの記録は“すずむし、No.124:29,1990”に依る。新家 勝氏の記録は兵庫家初記録になると考えられる。四国からの記録も無かったが石田明儀氏は高知県から記録され(Rostria, No.35:438-439,1983)、本年9月12日送って来られた“げんせい(56):17-24,1990”には川沢哲夫氏はか四氏共著の“四国におけるクチプトカメムシ類の記録”が発表になりその中で本種は高知県では平地の畑や水田から発見されるとして多くの採集例を示され愛媛県の記録も含まれている。また広島